

第 39 回 防災カフェ in 日野を開催しました。



水害から大切な命と財産を守るために

ゲスト：里深 好文 さん

(立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授)

日時：2019年7月11日(火) 18時～20時

場所：南比都佐公民館

ファシリテータ：深川 良一 さん

(立命館大学 理工学部 教授)

近年、局地的な豪雨は増加していて、毎年のように土砂災害や洪水災害が発生しています。どうしたら水災害から大切な命と財産を守れるのか、日野町の状況を踏まえながら一緒に考えました。



ゲスト 里深 好文 さん

はじめの1時間、ゲストからの話題提供がありました。その概要については、防災カフェのHP(滋賀県防災カフェで検索)の第36回「防災カフェ in 高島」や第37回「防災カフェ in 長浜」をご覧ください。その後10分間の休憩があり、その間に参加者の皆さんからの質問を整理し、後半50分間で、ゲストとファシリテータに答えていただきました。

以下、参加者の皆さんからの質問をいくつか紹介します。

問：ハザードマップを活用する際に注意することは？

答：ハザードマップは、皆さんがお住まいの市町が作成し、各家庭に配布されています。

水害、土砂災害、地震などで各地域にどのような被害が予想されるかがわかりやすいように地図上に色分けして示されています。ここで、注意しなければならないのは、私たちがハザードマップを安全度マップと考えてしまいがちだということです。つまり、自分の住まいが、水害時に「浸水する」と「浸水しない」の境界線の近くで、わずかに浸水しない区域に入っているという場合、浸水しないので我が家は安全だと考

えてしまうということです。これは、間違いです。ハザードマップは、一定の条件のもとで想定されたものですから、その条件を超える自然現象が起きると被災しないとされている場所でも被害が出ます。例として、東日本大震災の津波では津波に関してのハザードマップで、浸水域とされている区域のわずか外側で多くの人が犠牲になったという事実があげられます。ハザードマップはここは安全だということを示したものではありませんということです。特定の狭い個所を見るのではなく、全体としての傾向を掴むのに利用することが大切です。

問：ダム建設の治水効果とはどのようなものですか？

答：ダムは、薬に例えると劇薬に当たります。即効性がありますが、副作用もあります。ダムは、建設費がダムの代わりに下流の堤防を整備する費用に比べると大幅に安く、水害のリスクを下げる効果が大いいものです。戦後、水害を防ぐために、多くのダムが建設され、それにより、水害が大きく減りました。

問：車の運転中に危険を感じるような大雨にあったらどのようにしたらいいですか。

答：大雨の際のテレビなどで、水没している道路を自動車が走っている映像が流れますが、これは大変危険な行為です。水没している道路では、路面が見えないので、下水道などが逆流することによってマンホールの蓋が開いていることもあり、大事故になる可能性があります。水没している道路には入らないということです。

問：斜面が崩れる時、杉、ヒノキ、草、竹、雑木などそこに生えている木などの種類による差はあるのでしょうか。

答：私が、今まで会った山の専門家で樹木が生えていたら安全ですという人はいません。山の斜面を裸地のまま放置すると土砂が雨でどんどん出てきて山が痛むので、植物を植えることは大切だということはいえますが、人工林であろうが天然林であろうが木が生えていたら斜面崩壊が起きないということはありません。特に斜面が深



熱心に話を聴く参加者のみなさん

さ 30mや 40mで崩れる深層崩壊では、植物の根は高々数 m ほどしか入っていないので、全く関係がありません。また、風が吹くと山の木が激しく揺れますが、これによって斜面に余計な力が加わって弱くなり斜面崩壊が起きやすくなるということも言えます。

問：日野町内に発生する可能性の高い自然災害にはどのようなものがありますか。

答：山に近く谷出口の扇状地では、大雨での土石流が心配されます。2018年7月に広島市安芸区矢野東であった土石流は扇状地（谷出口）に造成された住宅地を襲いました。事前に特別警報が出ていましたが、上流に治山ダムがあり、それ以前に他地域で大きな土石流があった時に、たまたま豪雨にならずにほとんど被害がなかったこともあり、避難がうまくいかずに10名近い人が亡くなりました。滋賀県でもよく似た状況の場所があるので心配です。

また、日野川にそった平坦な地域では、地震時に大きな揺れが心配されます。日野川によって運ばれてきた土砂が堆積し、川がそれを浸食して川に向かって階段状になった河岸段丘を作っています。このような地形では地震の際に液状化のリスクが高いと思われます。細かい土砂が堆積してできている所では、地下深くから地震の揺れが上がってきた段階で揺れが増幅されます。また、見つかっていないだけで、日本中に活断層があって安全なところはどこもありません。単に今わかっているかどうかです。地震が起きた後で、活断層があったことがわかる場合も多いので、直下型地震もあるかもしれないと思って地震対策をしていただくのがいいと思います。



ファシリテータ：深川 良一 さん

里深さん、深川さん、参加者の皆さん ありがとうございました